

科技高 いきものの記

Vol.58 2022.8.24

生物教員 佐藤龍平

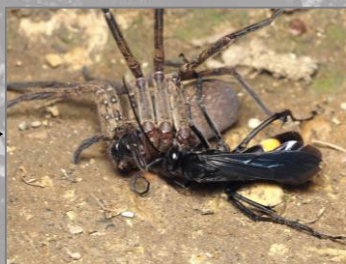
かりうどばち 自分より大きなクモを襲う狩人蜂 オオモンクロクモバチ



オオモンクロクモバチに刺されたコアシダカグモ。死んではないが体が麻痺してだんとして。刺したクモバチは我々に警戒して飛んで行ってしまったようだ。



しばらくすると、ハチが獲物のところへ戻ってきた！ちゃんと場所を覚えているようだ。獲物の周りをうろうろして確認している。



クモをひっくり返し、お腹側に噛みつくようとしている。ここがつかみやすいのかな？



腹に噛みついたまま起き上がった。



コアシダカグモを運ぶオオモンクロクモバチ *Anoplius samariensis* 体長約2.5cm
自分よりも大きな獲物を大アゴでくわえ、後ずさりで引きずりながら運んでいた。
ネズミやモグラの坑道に巣穴を作り、1匹のクモに1個の卵を産み付けるそうだ。

7月28日、科学研究部の昆虫班で高尾山へ出かけた。生き物好きが集まって虫採りに興じる、実に楽しい1日となった。

夕方、稲荷山コースでヒグラシの鳴き声にうっとりしていると、後ろからタツキが猛スピードで走ってきて、「ハチが！クモを狩っています！！」と教えてくれた。なにー！それは超見たかったシーンではないかー！！と全速力でタツキについていくと、オオモンクロクモバチがコアシダカグモを運んでいるまさにその瞬間を見ることができた！

他の昆虫などを狩って我が子に与えるハチを“狩りバチ（または狩人蜂）”と呼ぶが、狩りバチが“何を狩るか”は種類によって様々で、また“獲物の運び方”も多様だ。Vol.29で紹介したヒメツチスガリという狩りバチは、ハムシやゾウムシなどの小型の甲虫を狩り、口にくわえて飛んでいた。この他にもイモムシやハエ、ゴキブリなんかを狩るハチもいる。

この“狩りバチ”の中でも、大型のクモを獲物とする「クモバチ」（昔はベッコウバチと呼んでいた）の狩りは迫力が段違いだ。高尾山で見たこのオオモンクロクモバチは、なんと自分の体よりも大きいコアシダカグモを仕留め、運んでいた。獲物が重すぎて飛ぶことができないので、ずりずりと引きずりながら重そうに運ぶのだ。かのファーブル昆虫記には狩りバチの話がたくさん登場して、クモバチの狩りについても第二巻で紹介されている。小さい頃にこれを読んで、クモとハチの駆け引きの描写に物凄く興奮したことを覚えている。特別珍しいハチではないのだが、今まで獲物を運ぶ姿を見る機会がなかったので（そして今回もタツキがいなければ見つけれなかったのだ）、とても嬉しい。

クモだって強力なキバを持つハンターだ。特にアシダカグモの仲間は、巣を作って待ち伏せるのではなく積極的に徘徊して獲物を捕らえる。あのすばしっこいゴキブリなんか一瞬で捕らえて食べてしまうのだ（何年か前にクモ好きのリングが、飼育箱のアシダカグモにゴキブリを与えるところを見せてくれた。あれは衝撃的だった…）。そんな自分より大きくて凶暴な獲物を仕留めるなんて、、、クモバチってすごい。実はこの高尾山昆虫採集の前々日につらーい山登りをしてきたばかりだったのだが（Vol.57参照）、クモバチとの出会いのおかげで一瞬で疲れなんか吹き飛んだ。

参考：田中義弘(2012), 狩蜂生態図鑑, 全国農村教育協会
前藤薫(2020), 寄生バチと狩りバチの不思議な世界, 一色出版

科研部昆虫班の虫採りの様子

それぞれが自由に生き物を探して、次々に面白いものを見つけていた。

6号路にあるこの沢では、シマアメンボ、ミズスマシ、ムカシトンボのヤゴ、ババヤスデの仲間、プラナリア、タゴガエルの幼体などが見られた。

